

平成 21 年度最終報告書

(様式 10)

被助成者 特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会 印

コード番号	09-A-244
-------	----------

実施事業名 ネパール・ナワルパラシ郡貧困女性の生活向上支援活動

助成期間 平成 21 年 11 月 1 日から平成 22 年 11 月 1 日

【活動の背景】

本事業のプロジェクト実施地域であるネパール中央平野部のナワルパラシ郡には約 56 万人が住んでいる。インド国境に程近く地形は大部分が平坦であるにも関わらず、舗装されたハイウェイ沿い以外の地域ではアクセスの悪いところが多い。開発指標をみるとネパール 75 郡中 15 位に入っているものの、政治的エンパワメント関連の指標が高く、それ以外はネパール平均を下回るものが多い。特に水へのアクセス、人口あたり病院の数などの指標が悪い他、早婚（10～14 歳で結婚をしている人）が比較的多い地域である。その中でもナワルパラシ郡南東部のマーカル、ジャハダ、バダハラ・ドバウリア、ランプール・カラウナ、サラワル 5 つの VDC は、土地を持たない農民が多く、隣の VDC やインドまで日雇い仕事に出る世帯が多い。

「Women Acting Together for Change（略称 WATCH）」（本事業のパートナー）は以前からナワルパラシ郡で活動しており、人々の貧困状態を改善するには、資源管理や女性のエンパワメントに焦点を当てて活動していくことが重要であると考えている。そこで、上記の 5 つの VDC(農村開発委員会)において、貧困女性の生活向上と権利の獲得を目的として 1 年間のパイロットプロジェクトを行うことにした。

【活動の目的】

このプロジェクトの具体的な目的は、①WATCH スタッフが当該コミュニティと有益な関係を築くこと、②女性グループ（個人としてのメンバー含む）、フェデレーションがルールを作りや活動プランができるようになるを持つこと、③NGO スタッフやフェデレーション（女性グループの連合体）メンバーの能力強化、④スタッフのパフォーマンスやプロジェクト活動に対するモニタリングシステムを確立すること、である。

上記の 5VDC で活動している NGO はほとんどなく、かつ人々のエンパワメントを実現しようとする本活動はその意味で先駆的で実験的な取り組みだと言える。

【活動の内容と方法】

現地 NGO 「WATCH」 とシャプラニールが協働して本事業を行う。具体的には下記の活動を行う。

I. 女性グループを通じた活動：貧しい女性が 15～40 名でグループを結成し、定期的なミ

ーティングの場で様々な知識や技術を習得することで、生活向上を目指す。必要であれば、WATCH から直接ローンを借りることも可能。2~3 日かけて行われるアクションキャンプでは、女性グループが企画や当日運営をすべて行い、保健衛生、収入向上活動のデモンストレーション等を行ったり、畜産局など地方行政の出先機関を村に呼び家畜への予防接種などのサービスを村人が直接受けられるようにすることでコミュニティにも貢献する。また女性への暴力や差別などの社会問題についても積極的に討論、問題解決に向けた行動を起こし地域住民への啓発活動も行う。

II. フェデレーションを通じた活動：フェデレーションとは女性グループの代表から成る組織であり、3 年に 1 回行われる選挙によって役員が選ばれる。女性グループへのローン貸付や収入向上活動支援、フェデレーション自身の収入向上活動を行う。フェデレーションは将来的にこの地域の開発や啓発活動を担う主体となることが期待しており、地方行政との連携がスムーズに行われるよう、計画立案、活動実施、交渉能力の向上などフェデレーション自身の能力強化も行う。

III. 貧困層への働きかけ (Poverty to Prosperity) (貧困から繁栄へ) : WATCH のスタッフが個々の世帯と話し合いをし、2、3 年先になりたい姿を引き出し、そのために具体的に何をしたらよいかと共に考える。これを、ビジョニングと呼ぶ。その際、必要な場合には WATCH からローンが提供されるが、この活動は必ずしも金銭的支援が伴うものではない。スタッフは月 2 回程度訪問し、モニタリングを行い助言をする。このプロジェクトでは、計画に照らし合わせて成果を確認し、次の行動へ活かすという学習および実施のサイクルを、実践を通じて女性が身に付けていくことが重要である。

IV. 障がい者グループ：障がい者と保護者のグループを結成し、障がい者手帳の交付や学費割引など福祉サービスを受けられるようにするほか、さらに障がい者の権利を拡大するためグループを通して地方政府に働きかける。

【活動の実施経過および活動の成果】

I. 女性グループを通じた活動

プロジェクト地域に住む貧しい女性たちは日々の労働に追われ、自分たちが抱える問題について話し合う時間がない。そこで、彼女たちが一体となって活動し、地域資源のアクセスを得るために、似通った立場や背景の女性たち 15~40 人から成る 25 グループが結成された。マーカルとジャハダ VDC は WATCH が数年前から活動している地域であり、当該プロジェクト開始以前に 28 の女性グループが結成されている。女性たちは、スタッフを交えた話し合いを通して様々な新しい知識を習得し、自分たちの生活向上だけでなくアクションキャンプを通してコミュニティの開発にも取り組んだ。既存のグループのメンバーは、グループの重要性を理解し、コミュニティに対しても自分たちの責任を示している。新しく結成されたグループの女性たちは、VDC に割り当てられた年間予算や池など村に存在するあらゆる社会資本／資源を活用する権利が自分たちにもあるということを理解し、実際にそれらの資本にアクセスもしている。これらグループ活動を通して着実に自信をつけてきた。いくつかの女性グループの活動例を以

下に紹介する。

フルバリ女性グループ：2005 年にマーカル VDC で洪水被害に遭った地域の女性 30 人により結成された既存のグループ。彼女たちは土地を利用する上で、地主やエリート層から差別されてきた経験を持つ。WATCH から計画、生計向上活動、地域の資源利用について学んだ。彼女たちはグループを結成する前は、市民権カードを持っておらず、出生登録も行っていなかったが、今や自分たちの権利について堂々と話し合うことができるようになった。更に VDC の予算編成にも関わるようになり、資金管理や VDC と交渉する能力も身につけることで、電気の通っていなかったコミュニティに電気をつなぐといった成果を出している。このフルバリ女性グループのメンバーたちは、グループとしても個人としても自尊心を高めており、様々な問題を対処するために積極的に活動している。

シバ・マンディール女性グループ：ハルワと呼ばれるマーカル VDC の女性 10 人のメンバーで構成されるモデルグループ。ハルワとは先祖代々債務者とみなされ、賃金が支払われることなく一生地主の家に住み込みで働く債務奴隸の立場にいる人々のことを指す。現在では、ハルワは女性グループの結成によりこの地域では解放されている。このグループは農業を中心に活動しており、漁業、マッシュルームや野菜の栽培を協力して行っている。更に、彼女たちはグループの共同基金として 107,900 ルピーを積み立てた（1 ルピー=1.2 ルピー）。そのため、彼女たちはグループでの活動を通して、経済的な自立を果たし自信をつけている。

コト・ヒミア女性グループ：ドバウリア VDC において 30 人の女性により 2009 年 1 月に結成された新しいグループ。彼女たちは、貯蓄をすることから活動を始め、その資金をもとに収入向上活動を行った。新しいことを積極的に学ぶ姿勢が目立ち、グループ内でもフィールドスタッフともよくコミュニケーションを取る姿が見られる。健康や衛生に関する知識を身につけ、ろうそく作りや家庭栽培の技術を習得。更に、彼女たちは、VDC に各世帯へトイレ設置の補助の要請書を提出するなど、グループで力を合わせて自分たちの住む環境の改善に取り組んでいる。

賃金引き上げキャンペーン：ランプール・カラウナ VDC は他の地域に比べ、労働賃金が低いことが問題として挙げられている。ネパールにおける平均的な最低賃金はおよそ 90~100 ルピーであるが、この地域では、賃金として米が現物支給されるのが通例であり、さらに約 3 ラジア（ラジアとはこの地域の重量単位で、市場価格におおむね 60~75 ルピーの米に相当する）しか与えられていなかった。そこで 2 つの女性グループが賃金引き上げキャンペーンを行うことに決めた。そのうち 1 つのグループは、ダリットと呼ばれる被差別カーストに属していた女性たちによって成り立っていた。彼女たちはまず田植えの仕事をボイコットし、賃金引き上げを要求した。これに対し、地主は女性たちの代わりにインドから労働者を連れてこようとしたが、彼女たちは道を封鎖するなどしてそれに抵抗した。WATCH は女性グループと話し合いを

重ねアドバイスを与えた。また地元のダリット男性のグループが警察や VDC に対し、彼女たちの行為は正当な行為であると理解を求める手紙を書き、女性たちの運動に側面から協力した。このおかげで暴力沙汰にならなくてすんだ。最終的に地主が賃金をそれまでの 3 ラジア分の米から 4 ラジア分の米に引き上げることに合意した。このキャンペーンは、地域の中でも身分が低いとされている女性たちが団結することでこれまでタブーとされていた賃金引き上げに成功したという点で、大きなインパクトを与えた。

II. フェデレーションを通じた活動

2009 年はフェデレーションオフィスの建設を目標として、その実現のために活動した。フェデレーションメンバーは VDC とかけ合い、VDC が保有する土地の一部を獲得し、DDC (郡開発委員会) から 40,000 ルピー、WATCH から 50,000 ルピーの資金援助を受けることに成功した。そして、フェデレーションメンバーである女性グループも建設のための労働力を提供するなどしてオフィス建設に貢献した。その結果 2 部屋を持つレンガ作りの建物が完成した。物価の高騰により窓ガラスなどがまだ入っていない状態ではあるが、10 数名規模の会議や研修に使用できるスペースができたことは、女性たちにとって大きな成果の一つである。また、フェデレーションは民間銀行 2 行に貯金と投資用の口座を開設した。貸付のための原資は WATCH が提供し、女性グループメンバーに貸付を行っている。それまでは、村の高利貸しから 120% の利子で借りるしかなかったのが、12% で借りることができるようになったことで、住民が借金返済に追われるがなくなったことも評価できる。その他、彼女たちは、貧しい世帯の市民権登録や、結婚する際に必要な資金等のサポートも行うことで、自分たち以外の貧しい人々の生活改善にも貢献している。このような活動を通じて、フェデレーションメンバーは皆ミーティングでも積極的に発言し、それぞれ責任感を持つようになった。これからは、女性グループの中での人材の育成もフェデレーション活動の将来にとって重要になってくる。今後の継続的な活動に向けて、彼女たちは様々な機関と活動することで更なる財源を得たいと考えている。

III. 貧困層への働きかけ (Poverty to Prosperity)

この 1 年で 58 世帯が対象となった。スタッフによる個別訪問を通して、アドバイスを参考に外部から経済的な支援を受けることなく自力で生活向上に成功した世帯もあれば、金銭的なサポートを受けて成功した世帯もあった。ほとんどの女性は最小の投資で最大のアウトプットを生み出すことに成功している。例えば、ビマラ・チョードリーさんは夫と共に日雇い労働者として農作業に従事していたが、子供を私立学校に通わせたい、夫を海外出稼ぎに送り出したいという思いがあった。そこで、スタッフからの助言を受けて裏庭で家庭菜園を始め、余剰の野菜を近くの市で売ることで収入を得るようになった。夏野菜販売で生まれた 500 ルピーで稻作用の肥料を購入できた。また、裏庭に池を掘り養魚も始めた。数ヶ月後にはこの魚も売り、およそ 500 ルピーの収益をあげることに成功している。問題が生じたらスタッフに相談しながら改善し、徐々に生計向上を達成している。その後、更に山羊や鶏も飼うようになった彼女の

姿は、近隣の住民の生活態度にも影響を及ぼしており、ビマラさんを真似て養魚を始めた人もいるそうだ。このように、スタッフが直接携わった世帯だけでなく、周りの住民の生活をも変える効果を発揮したこの Poverty to Prosperity は、個人のみならずコミュニティの発展にも貢献している。

IV. 障がい者グループ

サラワル VDCにおいて 2009 年の 8 月に、7 才から 70 才までの障がい者やその保護者を含む 19 人のメンバーによって結成された。障がい者のメンバーはそれぞれ心身ともに何かしらの障害を抱えていたので、ミーティングを実施することが大変であったが、スタッフの定期的な訪問によってミーティングを行った。7 人の障がい者が障がい者手帳の交付を受けた。

V. 他の活動

上記の主な活動以外にも行われた活動は以下の通りである。

保健衛生：プロジェクトの中で、最低限の不可欠な薬や器具が提供され、コミュニティや個別訪問を通して健康や病気に関するアドバイスや治療が施された。特に、治療よりも予防することに力が注がれた。ヘルスファシリテーターは、健康、月経、母性愛、子宮脱出症、栄養、HIV/AIDS といった重要な点について説明することで、今まで住民が気にかけていなかった健康に対する意識や病気の予防への意識を高めることができた。

農業活動：57 名の村人を対象とした技術研修が行われた。活動内容は野菜の発芽実験、701 頭の家畜の駆虫、173 頭のヤギの去勢等である。更に、13 の地域で 1500 匹の稚魚が配分された。全体として女性に比べ男性が少ないため、男性の参加を促す必要がある。

【今後の課題】

この一年を振り返ると、このプロジェクトによりグループ、フェデレーション、個人のすべてのレベルにおいて様々な変化が見られた。最貧困層といわれている人々の自信を取り戻し、周辺の住民の行動も変化させていくという、シャプラニールが目指すエンパワメントを現実のものとしている。

一方でいくつかの課題もみつかった。まず、プロジェクト内容に関する課題として挙げられる点は、将来的に地域の活動を担うことを期待されているフェデレーションの育成戦略が弱く、該当する活動がほとんどないこと、また、メンバー自身もがこれからどう進んでいったらよいかを理解していない点である。また、障がい者グループの目的と活動が明確になっていないことも挙げられる。スタッフもグループメンバーも何をしていけばいいのかを理解していないという点で当プロジェクトの再検討が必要だ。

マネージメント関連では、WATCH はプロジェクトを地域のコミュニティやフェデレーションに引き継がせていくことを考えていたが、なかなかそのような考えに納得できないスタッフがいたことが問題であった。WATCH は彼らに、どうすればプロジェクトが地域コミュニティ

にとって有益になるかということを考えさせることで、少しづつフェデレーションやコミュニティを自立させていく手法をとった。ネパールは階級社会の国なので、NGO のスタッフになった者は自分たちがコミュニティの住民より優位な立場にあると考える傾向がある。そのため、失敗の経験から何かを学ぼうとせず、いつも他人に失敗を押し付けるのだ。このようなメンタリティがあると失敗を、学びと変化のチャンスであるととらえることができなくなってしまう。

他の課題としては、ターゲットの地域の中に NGO の恩恵を受けすぎた住民がいたことが挙げられる。彼らは、災害地域に暮らしているということもあり、ただで物資支援を受けた経験があった。それに慣れてしまった住民に対して自立させていくための活動を行うには困難があった。そのため、支援を受けるのが当たり前だという住民の意識を変えていきながら、プロジェクトを進めて行かなければならない。

なお当該事業は 2010 年 10 月末までを予定していたが、女性グループおよびフェデレーションの結成及び育成活動が 2010 年 3 月末で終了し、その後はパートナー団体である WATCH およびフェデレーションの独自活動として継続していくことが確認できた。よって、シャプラニールによる当該事業への支援活動は 2010 年 3 月末で終了、その後は若干のフォローアップ業務を実施することとなった。なお、当初計画していた活動は「コミュニティへの働きかけ」を除きすべて終了、「働きかけ」はフェデレーションが主体となって継続している。

【写真：活動の様子】



WATCH スタッフ



女性グループとのミーティングの様子



村役場に対して農業技術支援を要請するレターを起草する女性グループメンバー



賃上げに成功した女性グループ



ビマラさん（右手に写っているのは衛生状態改善のために作った食器乾燥ラック）



ビマラさんが裏庭に作った畑



アクションキャンプの様子（子どもたちにシラミ取シャンプーを塗布している）



アクションキャンプの様子（WATCH および畜産局職員による山羊の去勢サービス）